

## 招待論文

### (3) 「新世代コンピュータの応用」

#### If Prolog Is the Answer, What is the Question? <sup>(注)</sup>

D.G. Bobrow (Xerox Palo Alto Research Center, 米国)

Prolog が第5世代プロジェクトの核言語として採用されているが、知識プログラミングの観点からみると、Prolog の他に、関数型、オブジェクト指向、ルール指向といったプログラミングパラダイムを統合していく必要がある。本論文では知識プログラミングという言葉が使われているが、その意味は、知識ベースの構築を容易にし、かつ段階的に知識ベースを開発していくための複合的なプログラミング環境のことを示している。従って、本論文の論点は、いかにして種々のプログラミングパラダイムを統合し、ユーザへの使いやすいプログラミング環境を構築していくかを述べたものである。

結論としては、第5世代プロジェクトのキーとなる知識プログラミングのために、論理型プログラムの他に、新しいプログラミングパラダイムを統合し、協調型問題解決システムを今後、考えていかなければならないことを考察している。

註 本論文は、FGCS '84予稿集に収録されている。